

# ゴミ処理場の更新受注

AI化も川重、宝塚市から

川崎重工業は兵庫県宝塚市からゴミ処理場の更新工事を受注し



場の受注では過去最高額となる。人工知能(AI)活用の運転支援・遠隔監視など独自の技術を盛り込む。

新明和工業などとのJVが設計・建設・運営(DBO)方式で受注した。ストーカー式

焼却炉2炉で、処理能力は1日210ト。AI活用で、ベテランが遠隔地から運転状況を支援・監視する。改良型自動燃焼制御技術などで効率に発電し、

一般家庭約8000軒の年間使用量相当の余剰電力を売電する。マ

テリアルリサイクル推進施設も設ける。処理能力は1日31・5ト。AI活用で瓶を色や形状で選別する独自のシステムを導入する。

協働ロボットを活用し、作業員の負担を減らす。

運営する。2032年9月末の完工予定。自らが代表の共同企業体(JV)で受注した。金額は657億7780万円(消費税込み)。同社としてゴミ処理